

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32403

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13111

研究課題名（和文）イギリス少女雑誌における「新しい少女」と「新しい読者」の形成

研究課題名（英文）The Formation of "New Girl" and "New Reader" in British Girls' Magazines

研究代表者

牟田 有紀子（Muta, Yukiko）

城西大学・語学教育センター・助教

研究者番号：20801799

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は19世紀後半から20世紀初頭のイギリスの少女雑誌によって「新しい少女」と同時に形成された「新しい読者」を見出し、そこで構築された少女観と読者共同体の特異性を解明するという試みであった。2020年から始まったコロナ禍によってBritish Libraryでの史料研究に支障が生じたため2023年度まで延長し、中心となる4誌に加え、周辺資料を収集した。その結果、読者は雑誌を通して教育や就労を新しい文化として享受し、読者コミュニティとして立ち上げられた慈善団体を通して読者同士の結束を固めていたことや、雑誌と読者が互いを利益をもたらし存在と見なし、共犯関係を構築していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子ども向けの雑誌は、時代の子どもの観を迅速に反映する情報源でありながらも、従来ジャーナリズム研究においても児童文学研究においても総括的に研究されてこなかった。先行研究の多くは雑誌が提示した少女像の分析に終始しており、雑誌が強く意識していた読者の反応も特定の文化現象の解釈の一つとして捉えられてきた。今回、本研究課題において雑誌と読者を断絶することなく横断的に解釈することによって、子どもの読み物への子ども自身の参入という新たな研究の糸口を示したことは学術的な意義がある。さらに子どもとメディアの関係の歴史を社会に示すことには大きな価値があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This project was an attempt to discover the "New Girl" and the "New Reader" who were formed at the same time by British girls' magazines in the late 19th and early 20th centuries, and to elucidate the peculiarities of the view of girls and the community of readers that were constructed in these magazines. The project was extended until FY2023 due to Covid-19. In addition to the four main magazines, relevant materials were collected at the British Library. The results revealed that readers enjoyed a new culture of education and employment through the magazines, that readers bonded with each other through charitable organizations set up as communities of readers, and that magazines and readers viewed each other as benefactors and developed a complicity relationship.

研究分野：英語圏児童文学

キーワード：イギリス少女雑誌 新しい少女 読者共同体 消費文化 英語圏児童文学

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の中心となる概念「新しい少女」(New Girl)とは、イギリス児童文化研究者 Sally Mitchell による「少女学研究論(Girl's Studies)」の先駆者著書 *The New Girl: Girl's Culture in England, 1880-1915* (1995) に着想を得たものである。1880 年から 1915 年に 10 代から 20 代前半を過ごした「新しい少女」は、学校教育、専門職、スポーツといった、母親世代が持ち得なかった新しい文化を直接経験するだけでなく、読み物を通して間接的に経験し、独自のメンタリティを構築したという認識を前提としている。19 世紀末から 20 世紀初頭におけるイギリスの少女雑誌の隆盛と文化形成におけるその役割の重要性は既に多くの先行研究によって指摘されているが、少女雑誌の読者論研究は少女学研究論では比較的新しい領域で、Kristine Moruzi が *Constructing Girlhood through the Periodical Press, 1850-1915* (2012) で 19 世紀末から 20 世紀初頭の少女読者は既に編集者の意図をディコーディングする能力を有していたことを明らかにしており、この研究分野の嚆矢とされる。申請者はこれまで雑誌をエージェントとする「新しい少女」文化の創造を研究対象としてきたが、その中で雑誌が読者の存在を意識し、読者もまた雑誌が提供する情報を読み解くことが求められるという新しい読者と雑誌の関係性への気づきがこの研究課題へのきっかけになった。

同時代の少女雑誌がこぞって提供した「少女とは何か」という議論は、読者が介入することを前提として行われている。つまり、読者がいかに自らの存在を規定できるほどの発信者となり得ていたのか、あるいは編集者と読者が相互補完的な関係をどう推し測ることができるのか、という根源的問題に直面し、雑誌による文化構築の内実を吟味することが求められている。以上が、研究開始時当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究課題は、上記のような問題意識のもと、19 世紀後半から 20 世紀初頭のイギリスで出版された 10 代から 20 代半ばの少女をターゲットとした少女雑誌によって、「新しい少女」のみならず「新しい読者」が構築されたものとみなし、いかに読者が雑誌作りに参加して編集者と交流しながら自らの存在を規定したのか多面的な分析を行い、そこにどのような少女観が象徴されているかを解釈することによって、この読者共同体の特異性を解明することを目的とした。

これまでのイギリス少女雑誌研究は、雑誌がどのような少女像を理想としていたかという意図を、小説やエッセイから読み解くという作家論的手法が中心だったため、特定の文化現象を理論的に解釈しひとつの概念に還元することが多かった。結果として読者の反応もその文化現象の一例として回収され、読者の全体像が解明されるまでに至っていない。一方で本研究課題では、これらの先行研究を手がかりにしつつも、読者が参加する記事に焦点を当てることによって、編集者・読者を断絶することなく横断的に解釈することを目指した。

3. 研究の方法

具体的な分析対象として、*Monthly Packet* (1851-1899 1880 年以降を対象とする)、*Girl's Own Paper* (1880-1907)、*Atalanta* (1887-1898)、*Girl's Realm* (1898-1915) の 4 つの少女雑誌を取り上げ、読者投稿欄、賞金付きコンテスト、有料添削コーナーという読者が直接参加可能な事例に着目し、これまでイギリス少女雑誌研究では看過されてきた能動的な文化の作り手および消費者としての少女読者の存在を表出させた。上記の 4 誌は、それぞれ超保守的、中立的、先進的、脱ヴィクトリア朝的な性格を有しており、教育理念を異にするものの、同じように読者を巻き込みながら「新しい少女」について議論している。この同時性と読者共同体の発展の過程を証明することによって少女観と読者の変質と特異性を横断的に検証できるものと考えた。

4. 研究成果

2019 年度

本研究課題が開始した 2019 年度は当初の計画通り、4 つの少女雑誌の読者投稿欄を精読し、読者投稿欄による編集者と読者および読者同士の結びつきの強化を明らかにすることに注力した(上記研究方法の にあたる)。夏季には大英図書館で主に *Girl's Own Paper* の収集を行った。収集と精読の成果を研究発表 1 回、雑誌論文 2 本にまとめた。

日本児童文学学会例会では、「イギリス少女文化のモダンズムと読者の変容 雑誌 *Girl's Realm* を通して」のタイトルで研究発表を行い、「新しい少女」が脱ヴィクトリア朝的価値観の到来を示すアイコンとして雑誌の中で使われていることを明らかにした。*Girl's Realm* には「ギルド」という有料読者投稿欄が設置されており、そこでは読者が自治を行ってクラブを作ったり、様々な活動報告を行ったりと、19 世紀半ばにはあり得なかった自由な価値観の創造が行われていた。より *Girl's Realm* 読者の「新しさ」を明確にするために、本発表を加筆・修正した「自転車とモダンガール 世紀転換期イギリス少女雑誌に見る自立、競争、消費」を論文として発表した。また夏季に収集した資料をもとに、日本イギリス児童文学学会(現・英語圏児童文学学会)に論文「少

女雑誌 *Girl's Own Paper* における読者投稿欄の変化と読者共同体の構築」を投稿し、掲載された。本論文では、*Girl's Own Paper* が創刊当初は読者投稿欄を知識伝達の場所として使っていたが、少女雑誌の市場競争がより激化した世紀転換期には、知識と同時に「メンタリティ」を読者と共有することに尽力し、読者共同体を強化しようとしていたことを明らかにした。投稿欄は読者にとっては掲載されるステータスと心理的拠り所を与える場であり、雑誌にとっては読者の固定化を図るためのツールであり、両者は相互補完的な関係を築きながら雑誌という文化を成立させていたという知見を得た。

読者投稿欄は単に読者が流行を探るための情報源として活用されたのではなく、読者が雑誌の作り手となるための窓口であり、読者が発信者となることができる場であった。読者が発信することで読者共同体は強化され、雑誌文化の隆盛に繋がることが明らかになった。

2020 年度

新型コロナウイルス感染拡大によって、2020 年 2 月以降の研究活動が滞っている。本研究は、資料の発掘と分析の両方を目的としているが、資料の発掘をすることができなくなっている。本来であれば 2020 年も大英図書館で資料を収集するはずだったが、それが叶わないため、現在収集済みの資料・および関連する児童文学作品の分析を行った。

研究内容としては、子どもとお金の関係の変化を表出させるべく、19 世紀末の児童文学にあたり、また 2020 年当時所有していた分の *Girl's Own Paper*、*Atalanta*、*Girl's Realm* における賞金付きコンテストの役割について調査した（上記研究方法の ①にあたる）。

小説においては、特に 1890 年代以降の作品において、お金はモラルの試金石ではなく、娯楽のために消費される財となっていることが明らかになった。特にこの傾向は Edith Nesbit の作品に顕著だった。この結果を英語圏児童文学会第 50 回全国大会にて「自由を楽しむ子どもたち『宝さがしの子どもたち』における読書とお金」として発表した。

雑誌においては、雑誌でも文芸創作、手芸、絵画、知識を問うクイズなど様々なコンペティションが行われたが、特に賞金・賞品付きのコンペティションは応募数が多く、紙面の活性化に一役買った。

賞金・商品付きコンペティションでは、入賞者の名前、住所、年齢が公開され、1890 年代から 1900 年代には顔写真が掲載されることもあった。そのため、コンペティションの導入によって、単に読者の間で何が流行しているのか、どんな話題が読者の興味を引くのかということだけではなく、どこに住むどんな人物が「少女」という自覚をもってその雑誌を読んでいるのかという、リアルな読者の姿が浮かび上がってきた。しかし同時に、雑誌はコンペティションへの応募資格に年齢や居住地の制限を設けることによって、雑誌の理想の「少女」を定義しようと試みたが、それに当てはまらない読者の応募・入賞が相次ぎ、「少女」を定義することの困難と読者共同体の拡大が明らかとなった。このことを論文「少女の中の少女を目指して 後期ヴィクトリア朝の少女雑誌におけるコンペティションの意義」にまとめて発表した。

いずれの雑誌でも一番盛り上がったのは、読者の自作のエッセイや文芸作品のコンペティションである。特に女性観・少女観を問う課題は応募数が多かった。雑誌は外的要因によって「少女」を定義することには失敗したが、読者自身に「少女」とは何者かを語らせ、どんな意見が「優等」かの評価を付けることによって雑誌が求める少女像を作り上げることを可能にした。コンペティションはただの遊びではなく、読者を雑誌という少女のための空間に呼び込むための装置であり、読者にとっては楽しみながら承認欲求を満たしてくれる場であった。コンペティションを介して、雑誌と読者が相互補完的な関係性を結んでいることが明らかになった。

2021 年度

主に少女雑誌の文芸批評クラブの有料添削コーナーの役割を調査した（上記研究方法の ②にあたる）。本来であれば渡英して資料を収集し、本研究課題で扱っている雑誌の比較を行う予定だったが、2021 年度も新型コロナウイルスの感染拡大の煽りを受けて渡英が叶わなかったため、すでに収集している *Atalanta* の分析を中心に、いかに有料「優等な」読者の(再)生産と効率化を行っているかを検証した。

Atalanta は読者の学術的な教育に力を入れている雑誌である。1887 年の創刊号から "Atalanta Scholarship and Reading Union" という有料の文芸批評クラブを設置しており、読者の批評力を養成しようと試みた。このクラブでは毎月読者の番付が発表された。優秀な読者は年次大会に進むことができ、優勝すると年間 30 ポンドの奨学金が与えられた。ここで優勝した読者の中には実際に作家としてデビューする者もあり、*Atalanta* の教育の有効性を証明する存在となった。またここで活躍した読者は他の読者投稿欄でも名前が見られる。*Atalanta* は有料で、「競争」という従来であれば女性らしさに欠けるとされる方法によって、優秀な読者を見出した。また読者は発信者となることによって、単なる雑誌の読み手ではなく、新しい文化の作り手となった。*Atalanta* を精読することによって、少女向けの新しいジャーナリズムと新しい読者の姿を明らかにすることができた。この結果を論文「少女雑誌 *Atalanta* と読者の挑戦」としてまとめて発表した。

2022 年度

2022 年度はフォローアップ調査と総括に充てる予定となっていたが、一次資料の収集のために渡英することができず、総括を行うことはできなかった。そのため研究計画を変更し、オンラインで公開されている資料とすでに所有している資料を使用して、主に 1850 年代・60 年代および世紀転換期の少女雑誌における少女の表象および読者・編集者の役割の変化を比較、検証した。

日本ヴィクトリア朝研究学会第 22 回研究大会では、「*Girl's Own Paper* と *Girl's Realm* における読者の役割」というタイトルで、二誌における 1900 年の慈善団体の結成の意義と読者・編集者の関係性の変化を論じた。慈善団体については当初研究計画に入れていなかったが、本研究課題を進めるにあたり、雑誌における読者の役割、読者共同体の特異性を明らかにするために、追加で研究対象とする必要性を強く感じた。この慈善団体は中産階級女性としての責務を学ぶ場でありながら、同時に読者が雑誌の庇護の下、主体的に行動することができる場にもなっていたことを明らかにした。しかし雑誌は少女に機会を与えるだけでなく、彼女たちを雑誌の広告塔として利用したことも重要である。雑誌と読者はお互いに利益を与え合う関係を持つようになったのである。

Girl's Realm は、主体性を持つ活動的な少女を"Girl of the Period"と呼んだ。これは明らかに Eliza Lynn Linton のエッセイへのカウンターアクトである。その点に注目し、自己犠牲の精神に固執する雑誌 *Monthly Packet* と 20 世紀へ向けて少女観をアップデートしようとする短命の雑誌 *Girl of the Period Miscellany* の二誌を取り上げた学術論文「19 世紀イギリスにおける「少女」に関する議論とその転換点」を投稿した。"Girl of the Period"をキーワードにすることで、50 年を隔てた四誌の少女雑誌の影響関係を明らかにしながら、少女観の変遷と読者・編集者の関係性を検証することができた。1880 年代以降の少女雑誌の特異性を明らかにするためには、1850 年代・60 年代からの変化を論じる必要があることを再認識した。

2023 年度

本来は、本研究課題は 2022 年度で終了する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のために実施できていなかった資料の収集を行い、キャッチアップするために延長を申請し、認められた。大英図書館では、*Monthly Packet of Evening Readings for Younger Members of the English Church*、*Girl of the Period Miscellany*、*Girl's Own Paper* (1908 年以降)の未入手分や付属の広告の収集を行った。これらの収集のなかで、姉妹誌や吸収合併後の後発誌など関連する他の定期刊行物との比較の必要性が見え、さらに *Woman at Home*、*Girl of the Period Almanack*、*Girl's Friend*、*Girls School Magazine* の収集を行った。本研究課題で当初から収集を予定していた雑誌に加え、前後の時代の周辺資料も多少入手できたことによって、19 世紀後半から 20 世紀初頭のイギリス少女雑誌が構築した少女観と読者共同体の特異性がより浮き彫りになった。また電子データベースでは削除されてしまう広告や表紙などを入手したことが、本研究課題の大きなテーマである「消費」への意識の調査において大きな収穫であった。少女に消費活動を促すには、保護者の協力が不可欠であり、出版社は大人に向けた広告や記事を掲載し、子どもを通した大人へのアプローチを試みていたことがわかった。これらの成果をまとめた学術論文「*Girl's Own Paper* と *Girl's Realm* に見る少女雑誌と読者の共犯関係」が日本ヴィクトリア朝文化研究学会の論集に掲載された。

総括

1880 年以降の少女雑誌は、精力的に読者を巻き込む紙面作りを行い、読者を発信者と見なし、元は質問・相談コーナーから始まった雑誌と読者の一往復の関係は、コンテスト、文芸批評コーナー、慈善活動などに発展し、雑誌と読者の関係が数か月、数年単位で続く循環的なものになる中で読者が他の読者を強く意識する仕組みが構築された。雑誌の庇護のもと、読者は賞金をかけた競争、知性のコンテンツ化、さらには雑誌を飛び出し現実社会での活動に踏み込むことが可能になった。雑誌は読者の信頼を獲得し、読者が主体的に動くことができる場を提供することで購読者数を維持し、読者は雑誌作りに貢献することによって現実社会では制限されかねない活動を享受することができた。この点において雑誌と読者は互いに利益を差し出し、障壁を避け合う共犯関係にあったと言える。これが 19 世紀末から 20 世紀初頭の少女雑誌が提示した「新しい少女」としての読者像であり、彼女たちが作り、拡大させた読者共同体の特異性であると言える。読者を中心に据えることで雑誌研究に新たな視点をもたらすことが可能になった。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

| | |
|----------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 牟田有紀子 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 19世紀イギリスにおける「少女」に関する議論とその転換点 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 城西大学語学教育センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 45-62 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20566/18801919_15_45 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 牟田 有紀子 | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 少女雑誌Atalantaと読者の挑戦 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 城西大学語学教育センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 51-67 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|-------------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 牟田有紀子 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 少女の中の少女を目指して 後期ヴィクトリア朝の少女雑誌におけるコンペティションの意義 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 城西大学語学教育センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 49-65 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20566/18801919_13_49 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|------------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 牟田有紀子 | 4. 巻 65 |
| 2. 論文標題 少女雑誌Girl's Own Paperにおける読者投稿欄の変化と読者共同体の構築 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 英語圏児童文学研究Tinker Bell | 6. 最初と最後の頁 45-60 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|------------------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 牟田有紀子 | 4. 巻 12 |
| 2. 論文標題 自転車とモダンガールー世紀転換期イギリス少女雑誌に見る自立、競争、消費 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 城西大学語学教育センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 1-21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

| |
|-------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 牟田有紀子 |
| 2. 発表標題 Girl's Own Paper と Girl's Realm における 読者の役割 |
| 3. 学会等名 日本ヴィクトリア朝文化研究学会第22回全国大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 牟田有紀子 |
| 2. 発表標題 世紀転換期のイギリス少女雑誌における広告塔としての読者 |
| 3. 学会等名 ADVERTISING PRINT: BOOK ADVERTISING STUDIES (ONLINE SYMPOSIUM) (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|----------------------------------------------|
| 1. 発表者名 牟田有紀子 |
| 2. 発表標題 自由を楽しむ子どもたち 『宝さがしの子どもたち』における読書とお金 |
| 3. 学会等名 英語圏児童文学会（旧日本イギリス児童文学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|----------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 牟田有紀子 |
| 2. 発表標題 イギリス少女文化のモダニズムと読者の変容 雑誌Girl's Realmを通して |
| 3. 学会等名 日本児童文学会5月例会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 城西大学機関リポジトリJURA https://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-18801919-1309 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 6. 研究組織 | | | |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|
| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|